

メッセージ発信のためのデータ収集 学生動態調査結果

八大学工学系連合会

第3分科会

泉典洋、伊藤彰則（主査）、鈴木雄二、木内豪、藤居俊之、鈴木達也、尾上順、杉野目道紀、岸田潔、尾崎雅則、馬越大、中島邦彦、鵜林尚靖

学生の動態調査

- 2014年、2021年に実施
- 継続的な変化の調査、特に博士後期課程進学者の変化を調査する目的で、昨年度と同じ調査を行った
- 調査項目

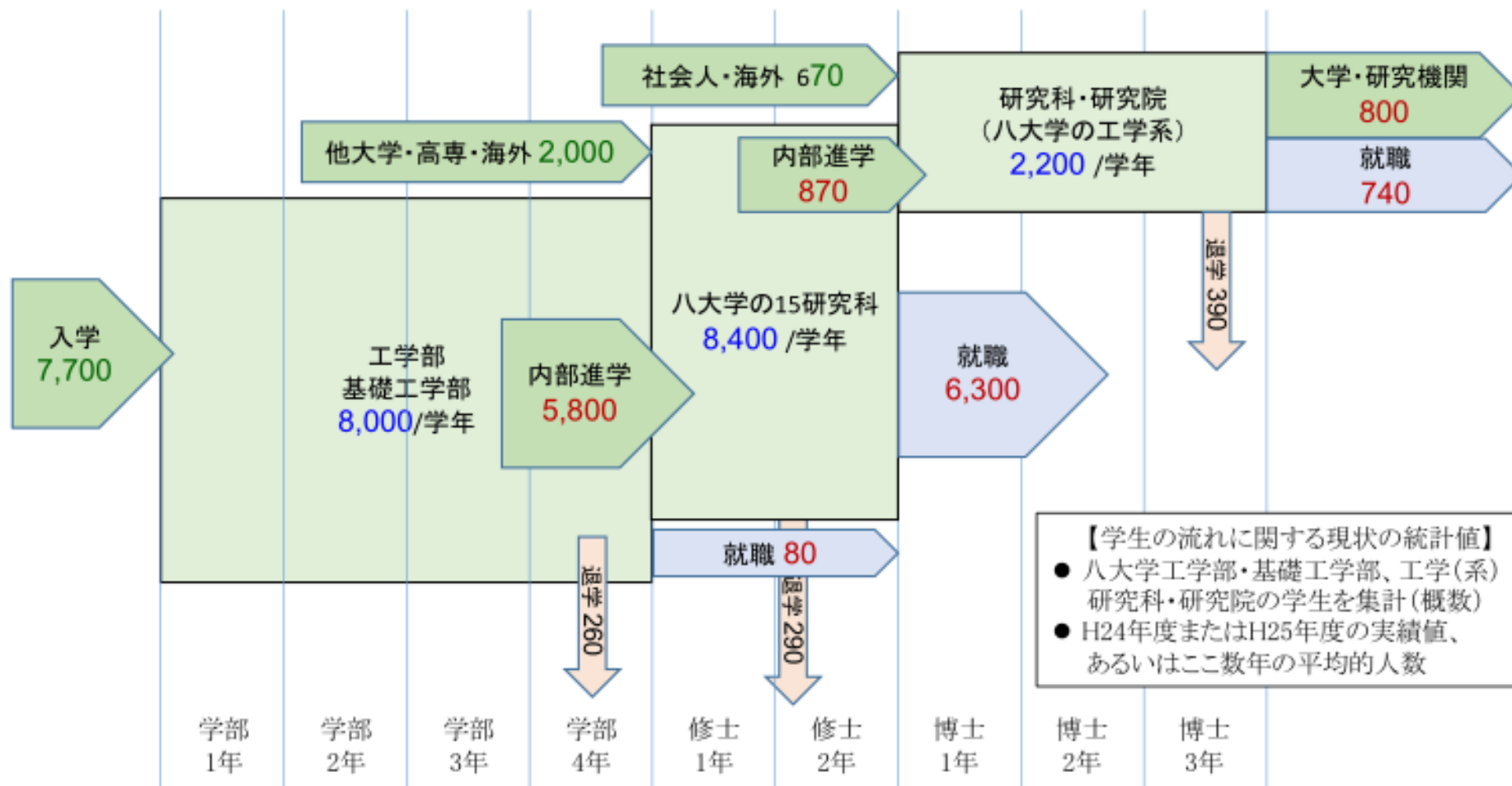
学部	博士前期	博士後期
入学者数（女子、留学生）	入学者数（女子、留学生）	入学者数（女子、留学生）
高専編入学者数 （女子、留学生）	学内進学者/学外入学者数 （女子、留学生）	学内進学者/学外入学者数 （女子、留学生）
退学者数	退学者数	退学者数
就職者数/進学者数	就職者数/進学者数	就職者数/その他
在籍者数	在籍者数	在籍者数

調査対象

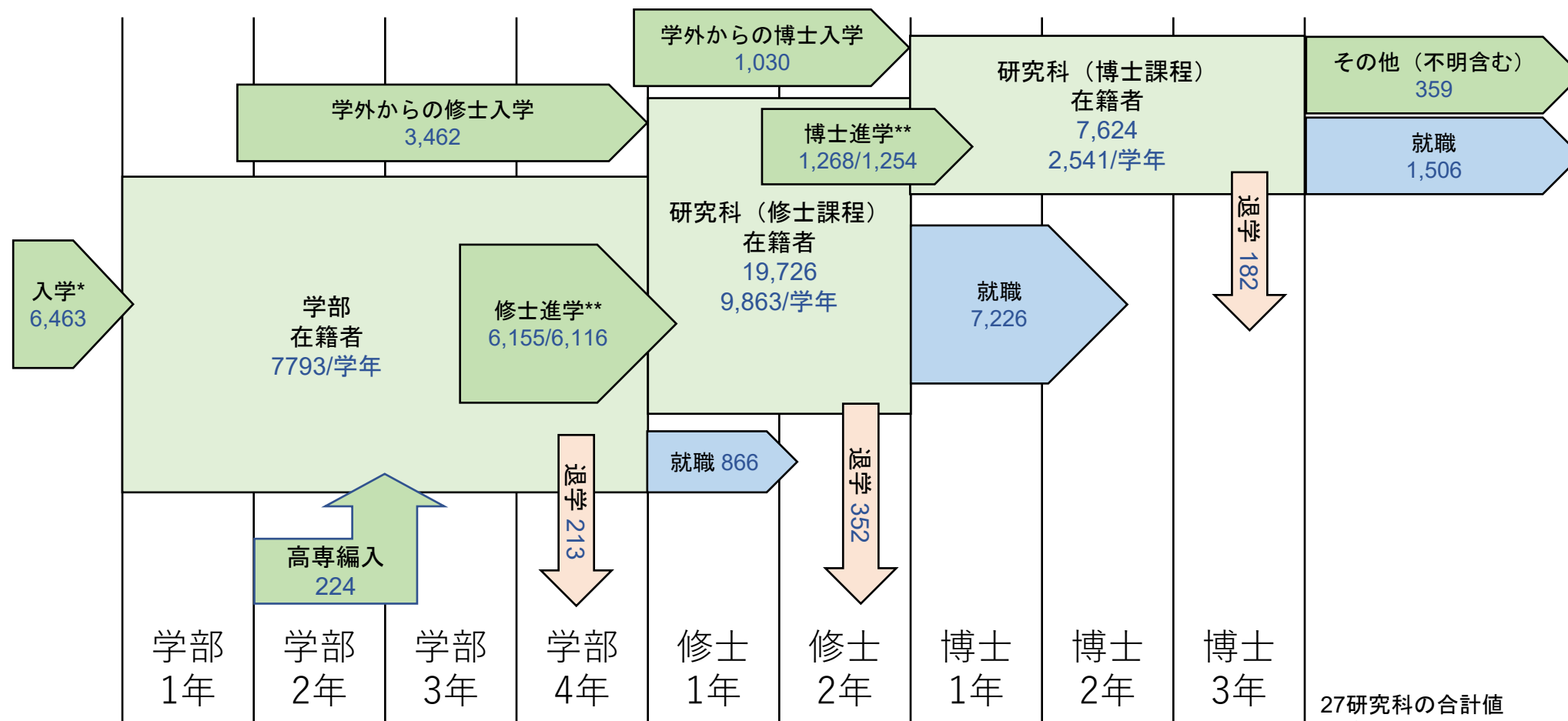
北海道大学	工学部	工学研究院、総合化学院、情報科学研究院
東北大学	工学部	工学研究科、情報科学研究科、環境科学研究科、医工学研究科
東京大学	工学部	工学系研究科、情報理工学系研究科、新領域創生科学研究科
東京工業大学	工学院、生命理工学院、物質理工学院、情報理工学院、環境・社会理工学院（学士課程）	工学院、生命理工学院、物質理工学院、情報理工学院、環境・社会理工学院
名古屋大学	工学部	工学研究科、情報学研究科
京都大学	工学部	工学研究科、情報学研究科、エネルギー科学研究科
大阪大学	工学部 基礎工学部	工学研究科、基礎工学研究科、情報科学研究科
九州大学	工学部 芸術工学部	工学研究院、芸術工学研究院、システム情報科学研究科、総合理工学研究院

八大学11工学部26研究科における学生の流れの現状

- ① 工学部の約 8,000名/学年中、5800名(73%)は修士課程へ進学、他は就職や他大等へ。
- ② 留学生や他大学からの約2,000名を加えて、修士課程には約8,400名/学年が在学。
- ③ その大多数 6,300名(75%)が就職、870名(10%前後)が博士課程に内部進学。
- ④ 博士課程への入学者の内部/外部(含留学生)の比率は概ね50%である。



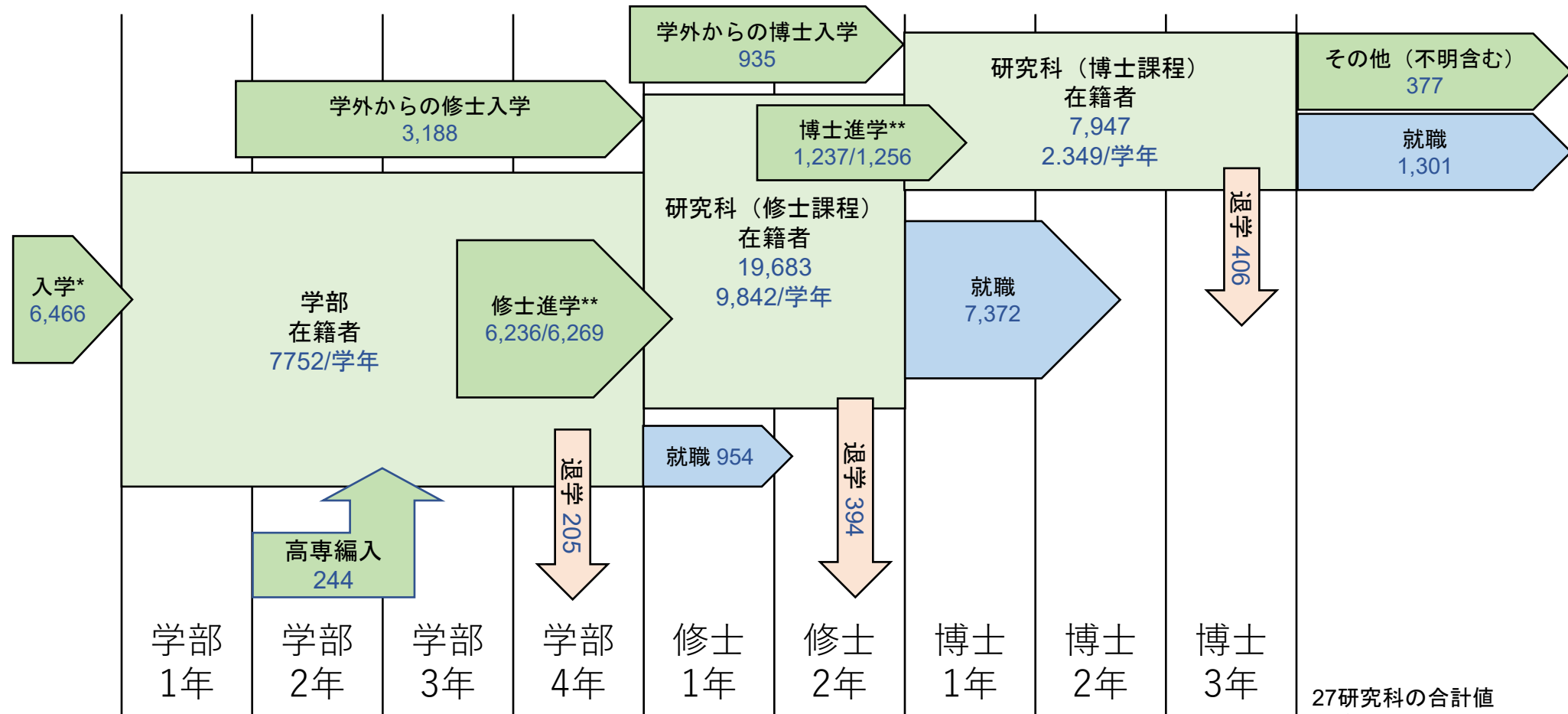
八大学工学系における学生の流れ(2021)



*東京大学を除く（工学部への進学が入学後のため）
 **卒業者の内訳/入学者の内訳

27研究科の合計値
 在籍者は2022年4月1日現在の各学年合計
 入学修了退学就職等は2021年度の合計

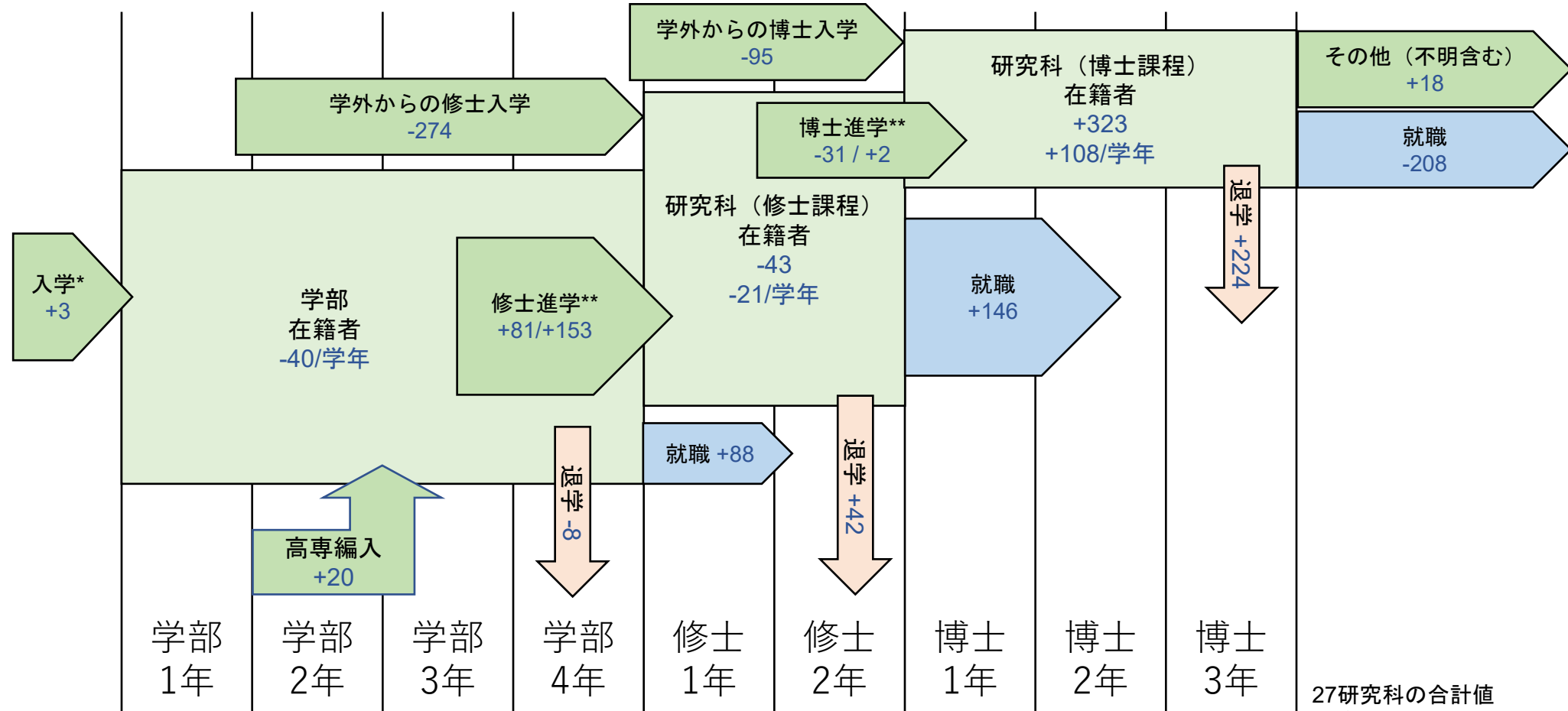
八大学工学系における学生の流れ(2022)



*東京大学を除く（工学部への進学が入学後のため）
 **卒業者の内訳/入学者の内訳

27研究科の合計値
 在籍者は2022年4月1日現在の各学年合計
 入学修了退学就職等は2021年度の合計

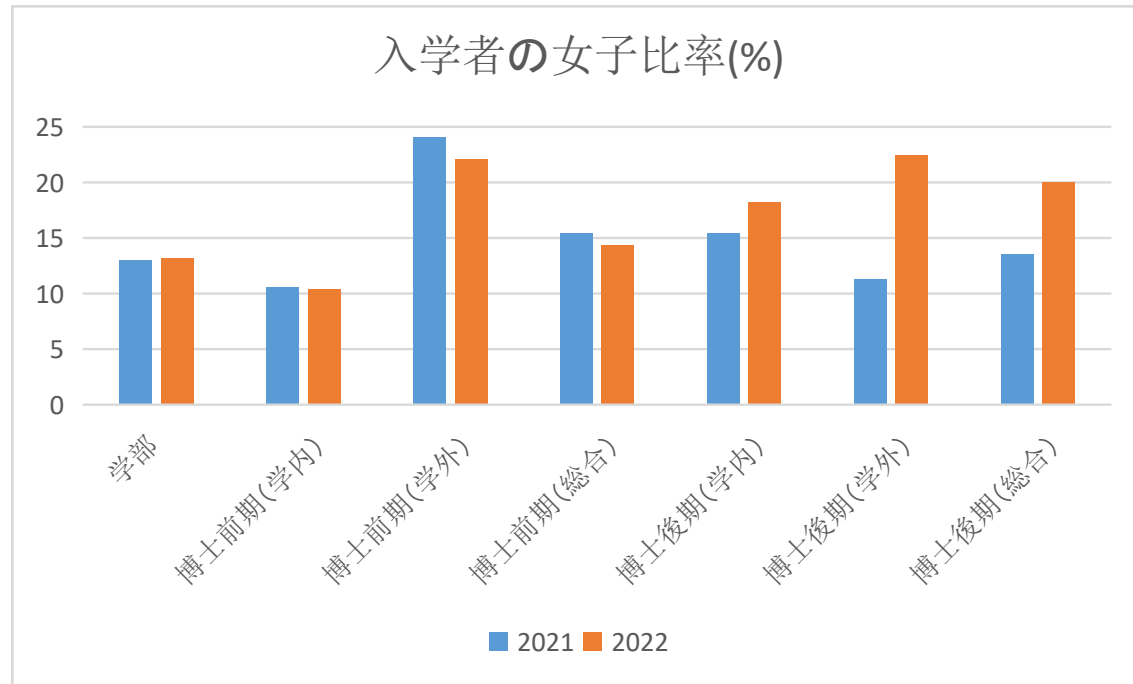
学生の流れの増減(2022-2021)



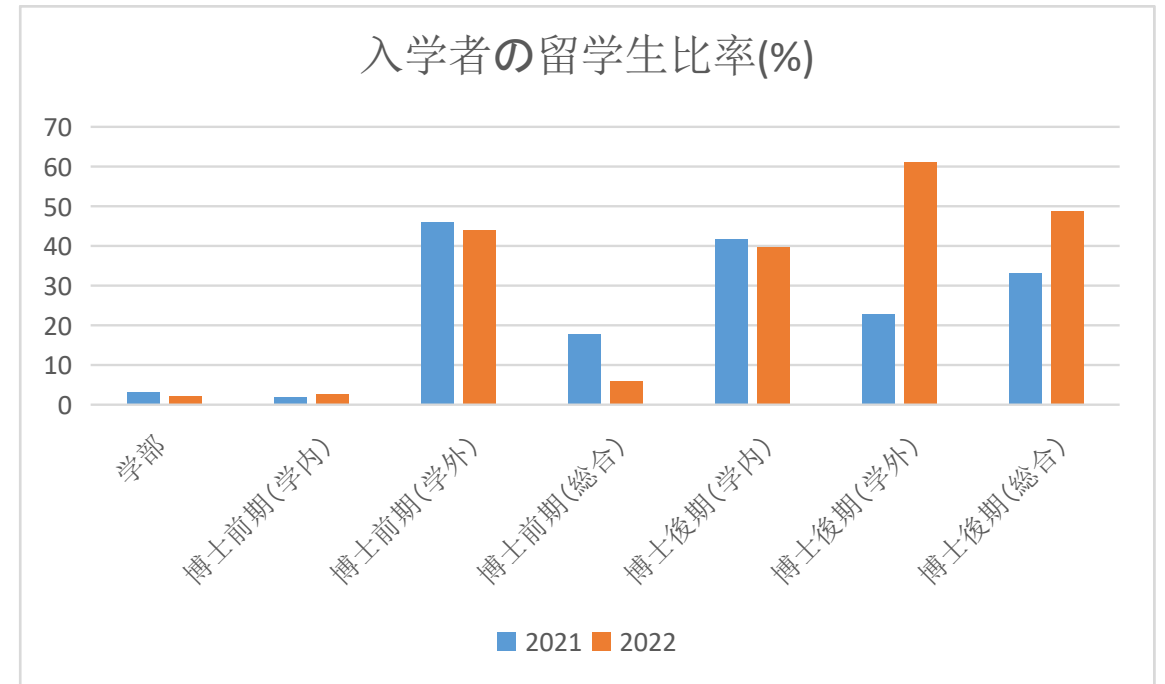
27研究科の合計値
 在籍者は2022年4月1日現在の各学年合計
 入学修了退学就職等は2021年度の合計

*東京大学を除く
 **卒業者の内訳/入学者の内訳

入学者における 女子学生比率・留学生比率



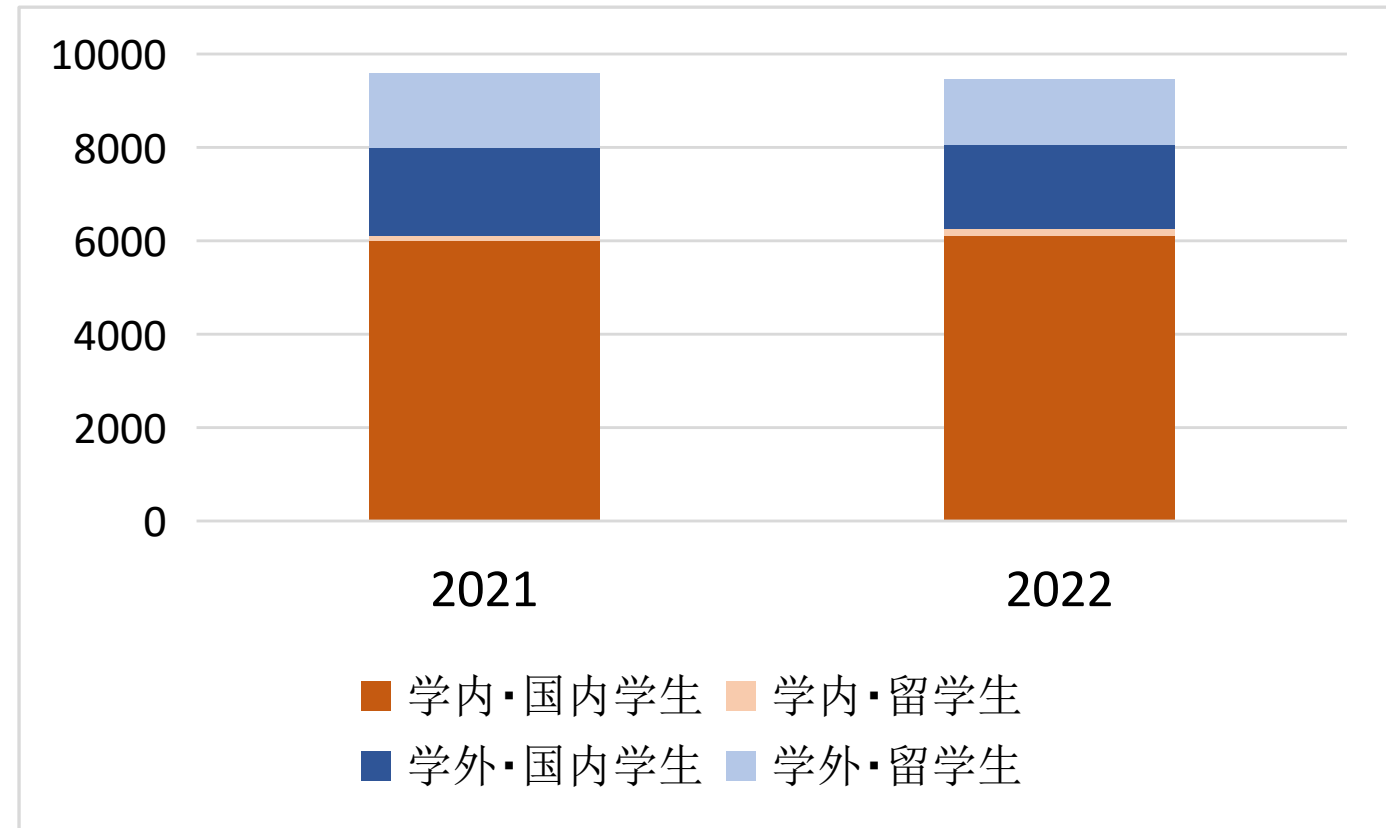
大きな変動はないが、博士後期課程の女子学生比率が伸びている。全体の入学者は減少しているが、女子の入学者は微増。



博士後期課程の留学生比率が伸びている。

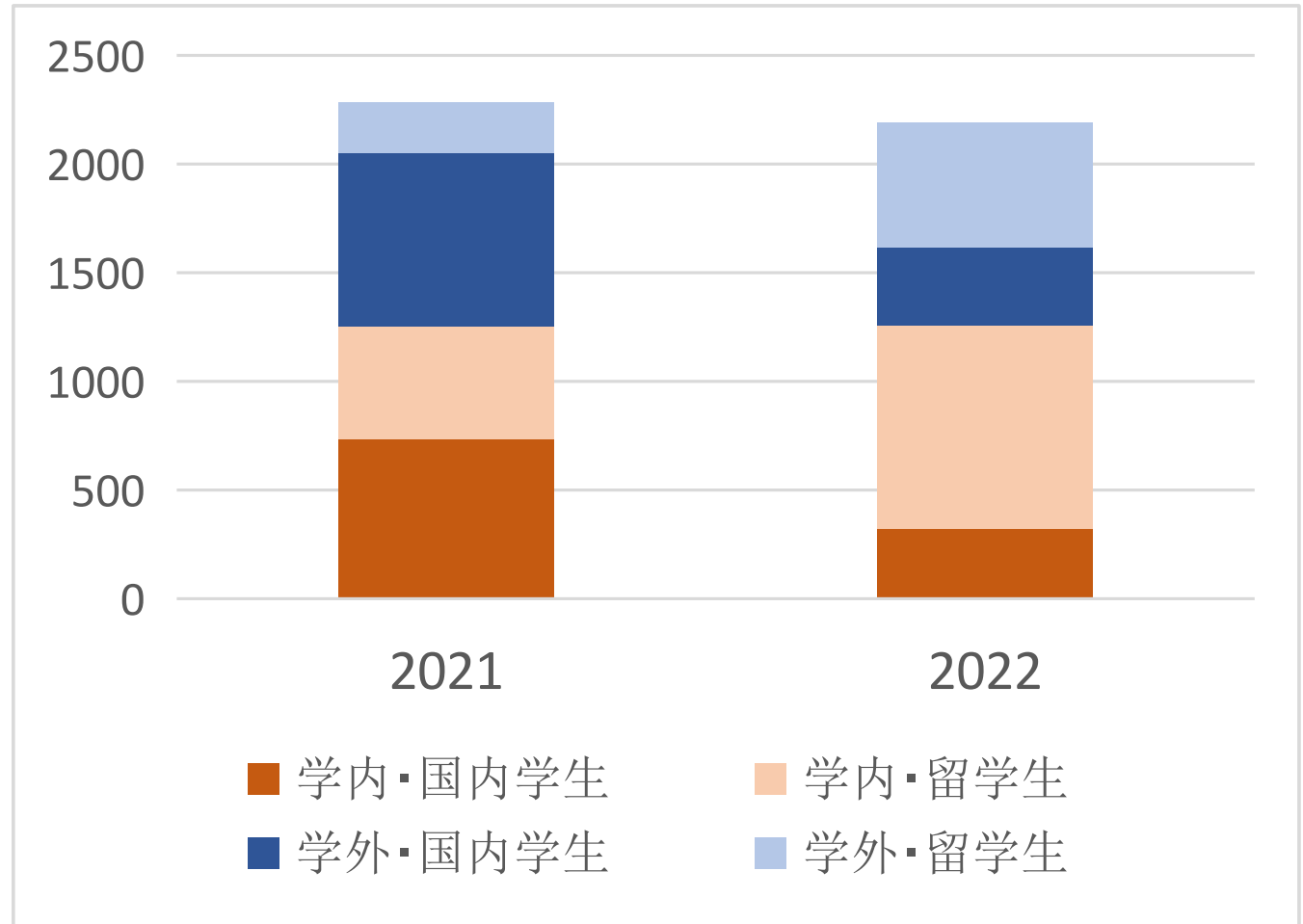
博士前期課程入学者における 国内学生・留学生数の変化

2022年は学内からの進学者が微増、学外からの入学者が国内学生・留学生とも微減



博士後期課程入学者における 国内学生・留学生数の変化

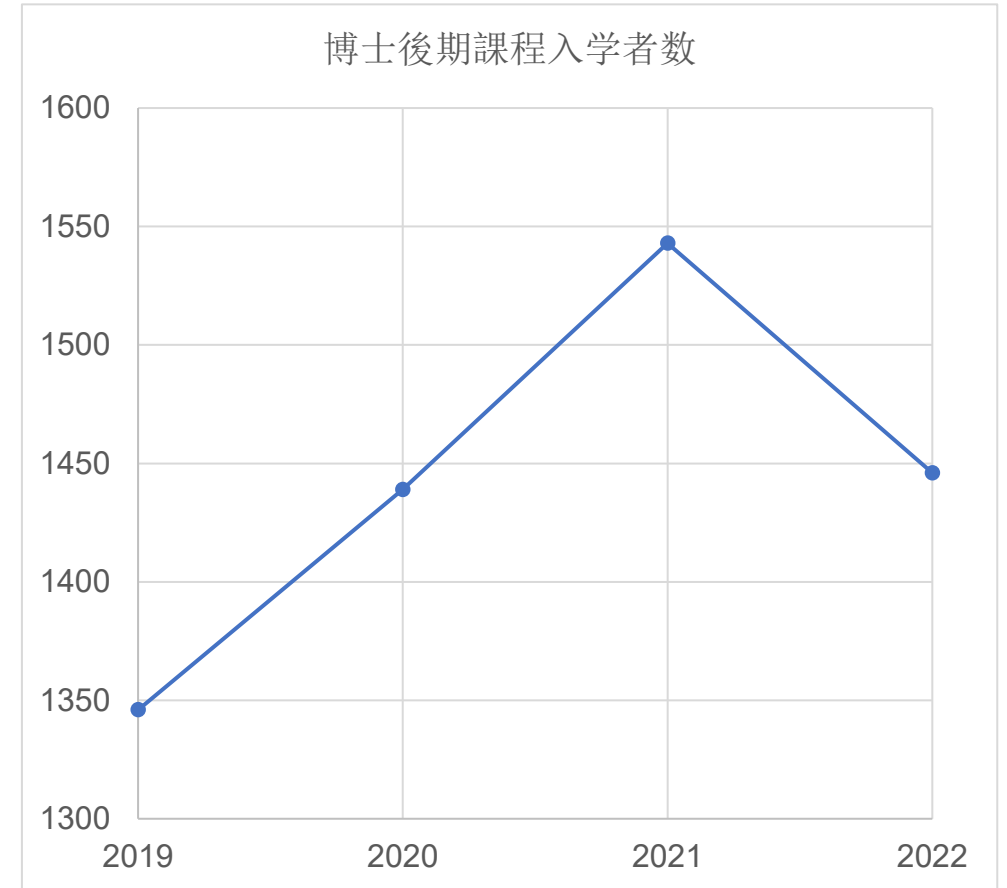
2022年は学内・学内とも留学生が増加して日本人学生が減少。全体としては微減
国内の学生が減り、留学生の受け入れで補っている可能性がある



博士課程入学者は減っているのか？

八大学の博士課程入学者推移

- 各大学の公開情報から集計、一部10月入学を含まない
- 2019年から増加して2021年にピーク
- 研究科と年度を要因とした分散分析では、年度の要因も有意 ($p=0.034$)



まとめ

- ・ 2021年度に続き、「学生の流れ調査」を行った
- ・ 年度ごとの比較のまとめ
 - ・ 修士進学は好調、在籍者は微減
 - ・ 博士進学は微減、在籍者は増加
 - ・ 留学生が増加、女子学生比率も増加
- ・ 博士課程入学者のトレンドが変化したかもしれない
 - ・ 博士学生支援の影響をもう少し観測する必要があるそう